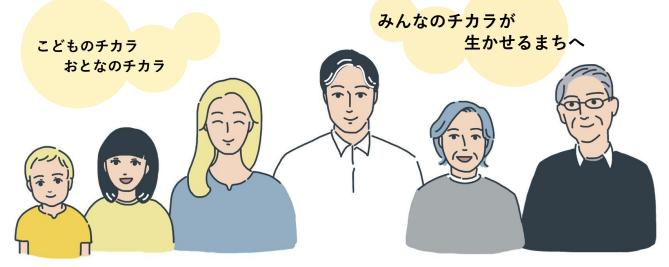
# ノバー求む・一緒につくろう「対話の場」

# 石岡未来会議 **\|オンライ**

市民と市役所が一緒にまちづくりを進めていくために 「オンライン上の対話の場」を、石岡市につくります



## わたしたちの暮らしを豊かにする場所を、まちにつくる - 新しい文化施設のかたちを探る -

令和2年3月に、50年以上にわたって文化芸術活動の発表と鑑賞の場であった、石岡市民会 館が閉館し、今年度から新たな文化施設についての調査が始まっています。新しい文化施設の かたちを探す、オンラインのワークショップを開催します(参加費無料)。参加者同士の対話 を通して、暮らしを豊かにする施設について、みんなで考えていきませんか。

第1回「石岡の『いま』を知ろう|11月3日(火・祝)

第2回「育てたい石岡の文化について考えよう|11月14日(土)

第3回「文化を育てるための仕組みとは? | 11月23日(月・祝)

第4回「暮らしを豊かにする場所を、まちにつくろう | 12月5日 (土)

※時間は、いずれも午後1時~4時です。

詳しくは



|問い合わせ 石岡市コミュニティ推進課 TEL 0299 – 23 – 7304

### 石岡未来会議オンラインの目指すもの

まちは、ひとが集まって、できています。

まちは、暮らしの場であり、働く場であり、ひとが育つ場所でも、あります。

私たちが、生きていく場所だから、石岡市を「よいまち」したい。

でも、「よいまち」ってどんなまち?

どうしたら、「よいまち」になるのだろう?

その答えを探す「対話」と「協働」の場を、オンライン上につくります。

その名も、「石岡未来会議オンライン」。

これまで、まちづくりに関心はあるけど、仕事や育児で参加できなかった皆さんも、 ぜひ、石岡未来会議オンラインのメンバーになってください。

「地域の未来のありたい姿」の実現のために、個人のチカラが生かせる「まち」へ 。 その一歩を、共に踏み出しましょう。

#### 「地域の未来のありたい姿」を実現するために

石岡市では、平成26年に、立場の違いを超えて、力を合わせて、まちづくりを進めていくために、 「石岡市協働のまちづくり条例」を制定しました。

「まちづくりの主人公である市民一人ひとりが考え行動するとともに、地域の特性や魅力をいかし、より良い地域社会を実現させることが、石岡市民の願いです。市民、地域コミュニティ、市民公益活動団体、事業者及び市がそれぞれの役割を分担し、どのように連携、協力していくべきかを定めた基本的なルールが必要なことから、ここに石岡市協働のまちづくり条例を制定します」(条例を一部抜粋して紹介)

立場の違う者同士が、力を合わせて取りくんでいくためには、「地域の未来のありたい姿」という大きなビジョンの共有が不可欠です。

そこで今回は、新たな文化施設を切り口に、石岡市の未来のありたい姿を、みんなで描いていきたい と思います。

#### 申込方法

#### 申込専用フォームからお申し込みください。

■参加資格:石岡市でやりたいことがある方

※原則、4回すべてに参加できる方が対象ですが、都合で参加できない日がありましたら、事前にお知らせください。



■定員:30人

■参加費:無料(別途、通信料がかかります)

■締め切り:10月30日(金)午後5時15分

※ZOOMによるオンライン開催です。参加者には別途、会議室URL等の情報をお知らせします。

■問い合わせ : 石岡市コミュニティ推進課

TEL 0299-23-7304 (担当:高橋) E-mail com-sui@city.ishioka.lg.jp

#### ファシリテーターのプロフィール

「石岡オンライン対話の会」 新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、立候補者のマニフェストを聞く機会が減ってしまった「石岡市長選挙(令和2年4月)」で、市内在住の女性2人が、立候補者インタビューをオンライン上で実施したことをきっかけに、立ち上げた会。市民が、ゆるやかにつながる対話の場づくり等を行う。

#### 姜 咲知子(かん さちこ)さん

岡山県出身。2009年、石岡市 に移住。有機農業を行う「暮ら しの実験室やさと農場」企画事 務スタッフ。



#### 平方 亜弥子(ひらかた あやこ)さん

佐賀県出身。2019年、石岡市に移住。CMやテレビ番組のナレーション活動のほか、ラジオのパーソナリティとして震災後、県内の人たちの話を聴く。

